プリンセス小公女セーラ

第9話

『インドからの手紙』

AR台本

企画
制作 日本アニメーション株式会社

小公女セーラ

プリンセス

第九話　『インドからの手紙』

登場人物

セーラ……………島本須美
ミンチン……………中西妙子
アメリア……………梨羽由起子
ピーター……………阪本千夏
ベッキー……………鈴木みえ
マリエット……………高木早苗
モーリー……………向殿あさみ
ジェームス……………郷里大輔

ラビニア……山田栄子
ジェシー……飯塚はるみ
ガートルード……佐々木るん
ロッティ……渡辺菜生子
アーメンガード……八百板万紀
スーザン……
リンダ……
クリステル……
ケーキ屋（主人）……

カメラ	画面		音声
1A	小魚の群れ　急に方向を変える 手前をタツノオトシゴがゆっく りSLIDING↓ 魚の群れが通過→SLIUE エイが大きくFr・in		
1B	↑FOLLOW　空気のあわか ら人魚が生まれる　中O・L		
2	波ガラス　GRI×2　海の中 バック透過光　空舞台　人魚が 二人Fr・inしてくる　髪が水中 にたなびく　付けPAN↓ ツノダイがうしろを通る ↘　CAMEYA　うしろに難 波船　口から息を吐く　画面一 杯の顔		
3	人魚が画面を通過		
4A	王子と王女が人魚を見ている		

	キラキラ光る二人 奥にお城がそびえている		
4B	人魚が水中から出て来る		
4C	王子、王女の目の前に来る人魚		
5	深々と一礼する人魚		
6	ニッコリする王子、王女		
7	二人を見てバックに宙返えり 手を振る　別れを告げる人魚		
7B	水しぶきをあげる　海に入る人 魚		
8	手を振る王子と王女		セーラ（声）(off)「そして海の王子様に愛されて 海底の光り輝くお城の中で暮らす事に なった。海の王女様は、いつまでも幸 わせな毎日を送ったのです」
9	手前に大きくやって来る人魚		
10	T・B　二人ゆっくりと手をお ろす　二人F・Oして消える		

	消える時、キラキラ　セルあり O・L		
12	脚をかかえて、その上にあごをのせて、うっとり宙を見つめていたセーラ顔を上げ見廻して、にっこりとする		
13	うっとりしている三人、アーメンガード、ロッティ、ジェイン		
14	アーメンガードの足によりかかりうっとりしているロッティ二人顔を見合せて笑い合う		アーメンガード「すてき……セーラのお話……」 ロッティ「私、王女様になったみたい」
15	微笑するセーラ		セーラ「……私も、お話を聞いたり、本を読んだりするとき、いつも主人公になったつもりになってしまうの……だけど……そのつもりになれる事が、お話や本の、とてもすてきな所だと思うわ……」
16	セーラを囲む子供たち		ロッティ「そうよ……そうよ」 アーメンガード(on)～(off)に「ほんとね……私もっと本が好きになりたいけど」
17	にぎやかなので「キッ」となって声の方を向くラビニアたち三		セーラ(off)～(on)に「なれるわよ！　アーメンガー

	18	19	20	21	22	23
人	にぎやかに笑う一同	さっと立ち上るラビニア、「キッ」となった顔をして、キリキリと怒る	「はっ」となってラビニアたちの方向くセーラたち	いいながら手前に歩く三人横の二人顔を見合せてうなづき合い後につづく	茫然として組んだ手をはずすセーラ	ラビニアゆっくりと手前に進みながら
ド・ほら本が好きになったつもりになるのよ！」	アーメンガード「まあ……」 一同「ハハハ……」 アーメンガード「だってえ……」 一同「ハハハ……ハハハ……」 ←（笑いこぼし）	ラビニア「うるさいわねー!! いい加減にしてよ!!」		ラビニア「……その馬鹿げたつもり遊び！」		ラビニア「お母様が云ってたわ。そのつもりになるなんて……悪いくせだって……!!」

24	せまるラビニアたち、おそるおそる立ち上り逃げ腰になる一同 ロッティあわててセーラの方へ行く		
25	ロッティinしてきて、セーラに飛びつき後にかくれるようにロッティ　ラビニアの方を見ていたセーラ、ロッティを見て肩においた手を安心させるために手を撫でるようにぽんぽんとたたいて立ち上る A・C		
26	立ち上るセーラを見て「キッ」となるラビニア、止る		
27	不安な目で見つめる幼年ぐみ		
28	一歩前に出るラビニア　怒りを馬鹿にしたような表情（せせら笑うように）のラビニア		ラビニア「美人のつもり偉くなったつもり…… あなたプリンセスになったつもりだって……ただの思い上りだけよ！」

29	困った顔のセーラ セーラの後から口をとんがらして		セーラ　「……私……プリンセスになったつもりだなんて、云った事はなくてよ」 ロッティ「そうよ！　セーラは私のママになったつもりだけだもん」
30	いかるラビニア		ラビニア「うるさいわね！　泣き虫に黙って！」
31	セーラの手にしがみつき		ロッティ「わたし泣き虫じゃないもん……セーラママがいるもん……」
32	増々激昂するラビニア　身をよじりロッティをかばうセーラ		ラビニア「何がセーラママよ、くだらない！　いくらママになったつもりになったって、本当のママは帰って来やしないのよ!!」
33	半べそをかく顔になっていくロッティ		
34	ロッティくやしがる　ジェインもラビニアに言い返す		ロッティ「ひど……い！」 ジェイン「ロッティが、かわいそうよ!!」
35	セーラ、身をのり出すようにして、ラビニアあごを突き上げ、ごうがんな感じで		セーラ　「ラビニア、こんな小さな子に対してそんな言い方ってないと思うわ」 ラビニア「ふん！　代表生徒になったからって年上の私にお説教する気!!」

			セーラ「そんな……」
36			ロッティ「ラビニアの意地悪!!」
37	怒るラビニア、「さっ」と前へ出る		
	A・C		
38	迫るラビニア、ロッティ、逃げようとするがそれより早くラビニアの指がおでこを押す ラビニア手をはなすと倒れるロッティ		
	A・C		
39	床に倒れるロッティ「はっ」となってロッティの傍にくるセーラ		ロッティ「ワーン!! ワーン!!」
	A・C		
40	目に涙を浮べているロッティをだきおこすセーラ セーラ、ロッティの頭、背中をさすりながら 泣くロッティを抱きしめながらラビニアの方を見上げるセーラ		セーラ「ローッティ!! ローッティ!!」 ロッティ「ワーン、ワ——!!」 セーラ「なんてことをするの!!」

41	にくにくしげな顔で立っている ラビニア		
42	不安な表情で両方を見つめるア ーメンガードたち		
43	三人をにらみつけているセーラ ロッティを守るように立ち上る セーラの肩が震えている ラビニアをにらむセーラ		セーラ　「私……今、あなたにどれだけ怒りを…」
44	冷笑を浮かべるラビニア		ラビニア「フフフ……フ何よ、私をぶつ気!!」
45	ロッティの肩におかれたセーラ の手が震えこぶしをつくる ロッティ、涙の瞳でシャクリ上 げながらセーラを見る		
46	セーラ真面目に		セーラ　「……え……ええ……本気であなたを たたきたいくらい……」
47	ラビニア、セーラを「キッ」と にらむ		ラビニア「……やるなら……やってごらんなさ いよ」

48	にらみ返すセーラ		
49	唖然とした表情のアーメンガードたち		
50	対峙するセーラ・ラビニアを見上げているロッティ		
51	にらむラビニア		
52	にらむセーラ　「フー」と肩の息を抜き、目を落とす		セーラ　「……たった今あなたを心の中で……いいわ……もう」
53	凝然とした表情でセーラを見つめるラビニア　セーラを見上げているロッティ		
54	うつむいているセーラ		
55	セーラをにらむラビニア　冷笑し振り返る。		
56	あっけにとられる二人		

	ガートルード、ジェイン		
57	にっこりと微笑するラビニア ちらりと後のセーラを意識して ゆがむ口許　前に出ていくラビニア		
58	二人の方へ行くラビニア、ガートルードとジェシー唖然とした表情でラビニアを見送る フンといった表情で手前を振り返り、ラビニアについていく、ジェシー、ガートルード		
59	うなだれているセーラ 力なく顔を上げて扉の方を見る		S・E　（扉の開く音）
60	扉をしめて出ていくラビニアたち一行		
61	見送る一同		
62	見送っていたセーラ、泣いてい		セーラ　「さあ……もう泣かないでロッティ」

	るロッティを見て　座りこみロッティをのぞき見る さっと集ってくる一同 ＡＤＬＩＢのスーザン・ジェイン・ペネラビ		一　同「……泣かないでロッティ……」 「いなくなったわ……」 「わるい人ね、ラビニアは」
63	振り返るロッティ、シャクリ上げながら大きく二度三度とうなづく		
64	にっこりとうなづき合うペネラビ、ジェイン		
65	泣きじゃくるロッティを抱きしめてるセーラ　「え?」となった顔でセーラを見るロッティ		セーラ「……私が……いけなかったのかもしれない……」
66	不満な表情のアーメンガード		アーメンガード「……セーラ!!　どうして……ぶたなかったの」 スーザン「そうよ……叩けばよかったのに……」
67			セーラ「叩いたわ……心の中で叩いたつもりになって許してあげたの」

68	驚くアーメンガードたち セーラ一同を見廻して微かに首を振り	アーメンガード「……どうして」 セーラ「……私が……ほんとうにプリンセスになったつもりになればよかったのよ」
69	怪訝そうにセーラを見るアーメンガード	
70	目を細め口惜しそうに唇をかみしめてうつむくセーラ	セーラ「そうすれば、あんなことになる前に、もっとプリンセスらしい話し合いが出来たのに……」
71	「ぽかん」としているスーザン 両手を合わせて訳もなく感動するアーメンガード	アーメンガード「すごいわ……セーラ……!!」
72	うつむいていたセーラ、「ぱっ」と明るい顔になる	セーラ「ね……みんなで、パーティを開きましょうか……!!」
73	びっくりする幼年ぐみ アーメンガードの方を見る眼セーラ	一同「……え??!」 セーラ「……学校中のみんなが仲良しになるパーティよ……勿論ラビニア達も招待するわ」

74	「あっけ」にとられているアーメンガード		アーメンガード「……え……?! ええ……」
75	にっこりするセーラ		セーラ「私、院長先生にお許しを頂いて来るわ」
76	春らしく芽ぶいている公園の木の枝に来て飛びあそぶ小鳥たち		ミンチン(off)「……あなたのお部屋で、お茶のパーティをひらくというのですか?」
77	振り向くミンチン　セーラ説明する　アメリア、セーラの前に来る　ミンチン「キッ」となって立ち上る		セーラ「はい、それで買物に行く事を許可して頂きたいのですが……」 アメリア「まア、面白そうね……私も是非お呼ばれして」
	A・C		
78	はっとなって振り返るアメリア		
79	待ちわびるアーメンガード、ロッティ、ジェイン　↙猫のシーザーがFr・in		
80	シーザー尻尾を振る　欠伸する　頭をかき、寝ちゃう		

81	窓際のミンチン　ミンチン振り返り		
82	ミンチン、部屋を行ったり帰ったり		ミンチン「成程……代表生徒として学校内全員が仲良くなるように考えるのは、悪いことではありません。特に許可しましょう」
83	不安な表情のセーラ		
84	立ち止り、セーラの方を見るミンチン		
85	セーラ、ニッコリして軽く会釈する		セーラ「ありがとうございます、院長先生」
86	満足げにうなづきメガネに手をやるミンチン		
87	欠伸をするロッティ		
88	待っているアーメンガード達 欠伸するローラ はっとなって向く四人		S・E（扉の開閉音）

89	扉を開けてセーラが出て来る 扉閉めて、三人がセーラに近づく　忍び足でセーラに近づく二人		
90	声をひそめて		アーメンガード「どうだった？」
91	セーラ手前に来る　ニッコリしてアーメンガードを見て		セーラ「あなたは私と買い物よ。ロッテは皆に声をかけて」
92	喜こぶロッティ 手を叩くロッティ		ロッティ「うわ〜い、うわ〜い」
93	ジャンプするロッティ		
94	ロッティがシーザーの尻尾を踏んでいる		シーザー(off)「ウギャ〜ォ」 シーザー「ギャ〜ォ」
95	街の通り　←FOLLOW 進む馬車　駆者にピーター、うしろにセーラ、アーメンガード 二階建て馬車が奥を通過する SLIDING		

96	←FOLLOW　ニッコリするセーラ、アーメンガード		
97	テームズ川にかかる橋、春のうららかな陽光が川面をキラキラと輝やかせている		
98	橋を渡る馬車		
99	ケーキ屋の看板があるC－PANすると、ジャンプ(馬車)がある		
100	チョコレートケーキとケーキ類が並んでいる　見ているセーラアーメンガード		
101	セーラ、左側を示して		セーラ「ええと、そのクルミを飾ったチョコレートケーキ十六コと、それからそっちの大きなミートパイをひとつ……」
102	セーラ、チョコケーキとミートパイを見ながら、セーラ、主人の方を見る		
103			主人「ミートパイの方はひとつでよろしい

			のですな。お嬢さん」
104	セーラ、ニッコリして		セーラ「ええ別に包んで。お願いね」
105	主人合点して		主人「承知しました、お嬢さん」
106	アーメンガード・セーラをのぞき見るように セーラ、ニッコリして 「?」のアーメンガード正面見る		アーメンガード「ね……どうして……? どうしてミートパイだけひとつなの」 セーラ「あれはね、もうひとりの仲良しのお友達の分なの」 アーメンガード「へえーッ」
107	ミートパイを見つめる二人		
108	ミンチン女学院（廊下） 重そうに水桶を運ぶベッキー		
109	野菜を切っているモーリー ジェームスが扉の方に近づく ベッキーもちょうど扉の方からやって来る		
110	ぶつかる二人		ベッキー「ひゃーっ」

	思わず額を押えるジェームス ベッキーすっとんでFr・out		ジェームス「うわーッ」
111	バッタリ倒れるベッキー		
112	水に濡れたジェームス　キッと、 ベッキーをにらんで		ジェームス「冷めてえじゃねえか、このトンマ、 おお痛え！」
114	ベッキー震えて		ベッキー「おお許し下せえやし」
115	見捉えているジェームス		ジェームス「このトンマ」
116	恐れおののくベッキー		
	A・C		
117	桶を蹴るジェームス		
118	エンマの足Fr・in　桶を蹴る 桶画面一杯に		
	A・C		
119	震えて見上げるベッキー のけぞる　Fr・out		S・E　（ゴチン） ベッキー「痛っ！」
120	転がる桶		

121	震えるベッキー　PAN・UP するとモーリーがいる		モーリー「ベッキー、何度へマすりゃ気がすむんだよ」
122	神妙のベッキー		
123	恐いカオのモーリー		モーリー「今夜の食事は抜きだからね。 (off)　早く掃除をおし！」
124	おそるおそる返事するベッキー		ベッキー「は、はい」
125	同表　ミンチン女学院前に馬車 （セーラ・アーメンガードを乗せた）がやって来る　Fr・in →SLIDING　停まる ジャンプ　ピーター降りる		ピーター「どうッ――」 「ヒヒ～ン」
126	箱を持ったセーラが降りる 続くアーメンガード・ピーター の方を見て		セーラ　「有難とう、ピーター」
127	ピーター帽子とってあいさつする		ピーター「えへへ」
128	思わず顔見合わせてニッコリす		

	る二人　玄関に向う ※セーラの方は十六個入りの箱 アーメンガード、ミートパイの 箱		
129	窓際にいるラビニア		
130	振り返るラビニア		S・E(off)（ガチャ）
131	ジェシーとガートルードが入って来る　扉を閉めているジェシー　ガートルード、ラビニアに近づく		
132	ラビニアに近づく二人		ジェシー「ね、なんだかみんなセーラの部屋に集まっているみたいよ」 ガートルード「他の部屋の子、全部よ。何をする気かしら」
133	ラビニア思わせぶりに		ラビニア「私達三人を仲間はずれにする気よ」
134	おどろくガートルード		ガートルード「ええっ？」

135	恐い顔したラビニア	ラビニア「セーラがやらせているのよ」
136	窓辺からベッドに座わるラビニア　ベッドに置いてあったブラシを取ると手かがみ	ラビニア「やれるならやってみるといいわ」
137	角度を変えると映るラビニアの顔	
138	ラビニア、ブラッシングしながら、顔上げるラビニア	ラビニア「誰が本当にこの学校の代表だか思いしらせてあげるから」 S・E(off)（コン、コン）
139	ガートルード　ジェシー「はっ」とする　振りかえる二人 扉あけるセーラ	ガートルード「はい」 S・E　（ガチャ） セーラ「ごめんなさい。一寸いいかしら」
140	キョトンとしたジェシー、ガートルード	
141		セーラ「これから私の部屋で、皆でお茶のパーティを開くの、皆さんも来て下さらない」

142	無言のラビニア、目がゆっくりと動く		
143	顔を見合わせるジェシー、ガートルード 正面見る二人		
144	扉閉める 振り返る二人 言ってからあせるガートルード		セーラ　「それじゃ、お待ちしているわ」 S・E　（ガチャ） ラビニア(off)「今度はお茶のパーティで人気とりよ」 ガートルード「仲間はずれじゃなかったのね」 ジェシー「ウフッ、セーラにもいい所あるわ」 ガートルード「うん代表生徒になってもちっともいばらないし……」
145	「ギロッ」と目が動くラビニア		
146	あわてるガートルード 手を振りあわてて否定する		ガートルード「い、いえあなたの事言ったんじゃなくてよ」
147	すごい形相のラビニア、淡々と言う　T・U		ラビニア「あなた達、わたしよりセーラの方が好きになったのね」 ガートルード(off)「ち違うわ」

148	否定するジェシー		ジェシー「そんな事なくてよ、ラビニア」
149	ラビニアはげしくブラッシングする		ラビニア「行きなさいよ、セーラのお茶のパーティとかに」
150	びっくりするジェシー		ジェシー「えっ！」
151	ギロリと二人をにらむラビニア		ラビニア「私、別になんとも思ってもないわ」
152	顔を見合わす二人 ジェシー、扉開け出て行こうとする　続くガートルード		ジェシー「じゃあ……一寸と様子だけね」 ガートルード「すぐ戻るわ」 S・E　(ガチャ)
153	ボーゼンと見送るラビニア T・Uする ブラシで髪をぐちゃぐちゃにする　恐いカオのラビニア		S・E(off)(ガチャ)

＜前半・おわり＞

154	芽ぶく木の梢　小鳥が飛び遊んでいる　窓にT・Uする		
155	窓の外を見ているアーメンガードとジェニファー　見合せて笑い合うアーメンガードとジェニファー		
156	ジェニファーとアーメンガードのスカートがゆれて横切る（小走りに）　エミリーをかざしながら揺り椅子を動かしているロッティ		
157	ごきげんに前后にゆれながら人形と遊ぶロッティ		ロッティ「フフ……フフ、可愛いエミリーちゃん……」
158	スーザンとジェイン、絵本を見ている　のぞいて笑って見つめているダイアナ		
159	ボナパルトを囲み、にぎやかにしている三人		リンダ　「こんにちは……」 アーメンガード「……はじめまして……」

160	羽の下をつついているボナパルト（全く女の子たちには無感心に）		
161	顔を見合せてくすくすと笑う二人		
162	カップにお茶をつぐマリエット次々と……		
163	テーブルにつき、顔を見合せて笑うクリステルとペネラビ		
164	クリステル、テーブル上のを眺めている セーラ、皿を持って来てテーブルに置く		クリステル「セーラ、すばらしいお茶の時間ね」 セーラ「皆でにぎやかに出来るなんて……私うれしいわ」
165	テーブルの上の食べ物 ケーキ、マフィン		
166	セーラ、笑いながらロッティを見て		ロッティ「セーラママ……エミリーも、やはりお茶をいただくの」 セーラ「フフフ……ええ……もちろんよ」

	にっこりうなづくセーラ 一同、扉の方を見る セーラ、扉の方へ歩いて行く		ロッティ「ほんと……!!」 セーラ「………」 S・E（ノックの音） セーラ「はあい!」
167	扉の方を見るロッティたち		S・E（扉をあける音、ガチャ）
168	扉を開けると、ジェシーとガートルードが立っている　セーラを見ていたが、うつむき、又上目使いにセーラを見る		
169	セーラ、微笑んで		セーラ「いらっしゃい、さあどうぞ……」
170	二人、気まづそうに顔を見合せる　うかがうように中を見る二人		
171	アーメンガードたち三人、テーブルの方へ来る　扉の方を見ている三人		

172	微笑しながら 二人、おずおずと中へ入ってくる　セーラ、のり出して廊下を見て、扉をしめて、二人の後ろから声をかける（明るく） セーラ、二人にたずねて はっとなって止まる二人、見合せて困った顔	セーラ　「さあ……中へ……」 セーラ　「ラビニアは?!」
173	ゆっくりとセーラの方を振り返るガートルード	ガートルード「……来たくないらしいの」
174	セーラ、残念そうに	セーラ　「まあ……」
175	二人、セーラの方を向いて ジェシー、言いにくそうに セーラ、うつ向いて ガートルード、セーラに近づいて	ジェシー「知っているでしょう。あなたの事好きじゃないの」 セーラ　「え、ええ……」 ガートルード「ね、セーラ、私達、本当を言うと、前からラビニアが好きじゃなかったのよ」
176	おどろいて顔を上げるセーラ	セーラ　「えっ?」

177	おどろいた顔の三人	
178	アーメンガードとリンダ、おどろきの顔を見合せる	
179	ガートルード、あわてて説明する ジェシー、近づき、セーラの手を握る	ガートルード「だってすごくいばるし、言う事を聞かないといじめるんですもの」 ジェシー「だから私達、これからはあなたと仲良しになる事にしたの」
180	ガートルード、勢い余って思いのたけをのべる	ガートルード「もう、ラビニアなんて大嫌いよ!」
181	二人を見ながら困惑してゆっくり手をおろす	セーラ「いけないわ、そんな事を言っては…」
182	ドルシラたち、怪訝な顔をする	
183	セーラ、にこやかな顔で	セーラ「……このパーティを開いたのも、ラビニアとも仲良くしたかったからなのよ」
184	おどろき、顔を見合せ、ざわめ	「え……まさか」

	く一同		「ほんと……」 「セーラったら」 「信じられる?!」
185	にこやかに、くるりと扉の方を 向くセーラ		セーラ 「いいわ……! 私、ラビニアを誘っ て来る」
186	「はっ」となって前へ出る二人		ガートルード「え……困るわ、セーラ!!」 ジェシー「待ってよ! セーラ!」
187	勢い良く扉を開けるセーラ あっと言う間に表情が変わる びっくりするセーラ		S・E (ガチャッ) セーラ 「あっ」
188	はっとなるセーラ		
189	凝然として立っているラビニア		
190	ジェシーとガートルード、ギク リとして目を伏せる		
191	愕然として見ている室内の一同		

192	はっとなって目をパチクリしているロッティ		
193	扉の方を見つめている一同と、 セーラを見つめているラビニア		
194A	時計は二時を過ぎようとしている		
194B	セーラ、微笑みをとり戻す セーラ、ラビニアを招き入れる		セーラ　「いらっしゃい、ラビニア……あなたを待ってたのよ。さ、席がとってあるわ。どうぞ」
194C	ラビニア、入って来る　キリリとなって止まる　ゆがむ口許		
195	気まずそうにうつむくガートルードとジェシー　二人の前につかつかと進むラビニア、いやみたっぷりに二人をにらみつける 二人は苦虫をかみつぶしたような顔でうつむいている くるりと振り返るラビニア		ラビニア「私、このパーティのお客に来た訳じ

		やないわ」
196	ハッとなるセーラ	
197	ラビニア、皮肉っぽく セーラ、たずねて ラビニア、きっぱりと言う	ラビニア「あなたに本当の事を教えてあげに来たのよ」 セーラ(off)「本当の事って？」 ラビニア「あなたが、なぜ私に代って、代表生徒になれたかって事よ」
198	唖然としているセーラ	
199	顔を見合わすアーメンガードとジェニファーたち	
200	冷静をとりもどすセーラ 前に出るラビニア　う！となる セーラ　一同を見回し、セーラ の方を見て話し出すラビニア 唇を引きしめるセーラ	セーラ「ラビニア……そう云うお話しなら、今ではなくて、あとでうかがった方がいいと思うわ」 ラビニア「いいえ……みんながいる前で話してあげるわ。よくって！〜

201	ラビニア、きっぱりと言う		〜 あなたが代表生徒になれたのは、あなたが私よりすぐれてるからでもなんでもないの。
202	得意気に話すラビニア		〜 あなたが、お金持ちの娘だからよ。だから、あの欲張りのミンチン院長が…」
202A	ラビニアの言葉をさえぎり、たしなめるセーラ		セーラ 「ラビニア！」 S・E(off)（ノックの音、コンコンコンコン）
202B	びっくりのガートルードとジェシー		
202C	振り返るセーラ　髪がたなびく		
202D	唖然とするロッティ		
202G	ラビニア達三人もハッとする		
202H	扉が開き、アメリアがニッコリして入って来る		S・E　（ガチャ）
202I	あわてて顔を戻すアーメンガー		

	ド、リンダ		
202J	アメリア、ニッコリしてやって来る		S・E(off)（バタン） アメリア「まあ皆さん、どうなさったの……もっと大騒ぎしているかと思ってましたのに」
202K	セーラ、困ってニガ笑いしてうしろ手に封筒を持っているアメリア　アメリア、後ろ手に持った封筒をセーラに手渡す		セーラ「え、ええ」 アメリア「セーラさん」 ――（間）―― セーラ「はい」
202L	差し出された手のＵＰ		アメリア(off)「インドのお父様からお手紙よ」
203	目パチ二回 顔がほころぶセーラ ＦＲ外から手紙を受け取るセーラ		←〜〜（こぼす） セーラ「まあ、有難うございます、アメリア先生！」
204	ロッティ、セーラに近寄る		ロッティ「うわ――い」
205	ロッティ、セーラの方にまわり		ロッティ「わぁ、いいな、セーラ。ねぇ、読ん

	込んできて セーラ、うなづく		で、読んで聞かせて」 セーラ　「ええ」
206	アメリア、微笑んで		アメリア「そうねぇ……セーラさん、よかったらどんなお手紙だか、みんなに話して下さらない？」
207	拍手するアーメンガード、リンダ		
209			ロッティ「セーラ、エミリーも読んでって言ってるわ。ねぇそうでしょ、エミリー」
210	セーラ、ニッコリして		セーラ　「わかったわ、ロッティ」
212A	A・C 手紙を切るセーラの手　ゆっくりと切っていく　手をおろす O・L		
213	そっぽを向いたラビニア達からT・Bすると、手紙を読むセーラ　その周りに子供達、アメリア ラビニア達からT・B セーラ、顔を上げる		セーラ　「まあ、お父様が……」

214	ロッティ、知りたくて仕方ない		ロッティ「ね、ねぇ、お父様がどうしたの、セーラ？」
215	セーラ、ロッティに説明する		セーラ　「あのね、お父様が、インドでお友達と新しいお仕事を始めるんですって…」
216A	アメリア、身を乗り出して		アメリア「まあ、どんなお仕事?!」
216B	セーラ、アメリア見て		セーラ　「ダイヤモンド鉱山て書いてあります」
217	一瞬キョトンとしていたが——拍手する一同		一　同　「うわ——っ、～うわ——っ」
218	拍手する一同		
219	驚くガートルード、ジェシー動かないラビニア（肩が震える）ジェシー、ガートルード、顔を見合わす		
220	唇を噛みしめるラビニア、震えている		

221	廊下　ミンチンの部屋（書斎）から出て来るベッキー　扉を閉めるところから　モップを取り、バケツを持つ		S・E（ガチャ）
	A・C		
222	二、三歩動いて「あらっ」の表情　立ち止まる		女の子達の歓声(off)「フフフフ……」
223	ベッキー、セーラの部屋に近づき、扉に耳をあてる　シーザーがin　シーザーがベッキーに近づく		←～～～
229	見上げるシーザー		
230	扉の前のベッキー　——間——　手前に重い足どりであるき始める　行くベッキー　見送るシーザー　out する		
231	降りていくベッキー		シーザー「ニャ〜〜オ」
232	同・セーラの部屋　アーメンガ		アーメンガード「すごいわ。じゃセーラのお父

	ード、感激して うっとりする		様は、もうすぐダイヤモンド王なのね。 う〜ん」
233	照れるセーラ 自分の事のように喜こぶロッティ		セーラ「まあ、そんな」 ロッティ「そうよ、そうよ。そしてセーラは、 ダイヤモンド王のプリンセスになるの よ。うわ――い」
234	ニッコリするロッティ		ロッティ「フフフ……」
235	複雑な気持ちのセーラ、ロッテ ィを見て		
236	アメリア、セーラのイスに手を やり セーラ、びっくりして outするアメリア		アメリア「おめでとうセーラさん。なんて素晴 らしい手紙なんでしょう。私、早速こ の事を院長先生にお話してきますわ」 セーラ「えっ、院長先生に？」
237	キッとなり、セーラをにらむラ ビニア		
238			S・E(off)（扉の閉まる音、バタン）

	口々にセーラの事をほめる女生徒		「(アドリブ)すごいわ、セーラ」 「(アドリブ)大金持ちになるのね」 ロッティ「ちがうわ、プリンセスよ」 「(etc)」
239	沈黙のセーラ　怒鳴るラビニア ハッとして振り返る		ラビニア(off)「帰るわ!!」
240	扉に向うラビニア 顔を見合わせる二人 ラビニア、すごい顔してきびしく　肩ごしに見据える		ラビニア「ジェシー、ガートルード!」 二　人「えっ」 ラビニア「帰るのよっ!」
242	セーラ達のいる方をチラッと見て行くジェシー、ガートルード 上手にoutする		
243	三人を見送る子供達		
244	残念そうなセーラ		S・E(off)(バタン)
245	同・ミンチンの部屋　振り返る 苦しそうに胸を叩く		ミンチン「なんですって。 セーラの父親、いいえ、あのクルーさん

			が……」
246	一歩前に勢い込んだアメリア		アメリア「ええ、お姉様。手紙の様子では、インドで有望なダイヤモンド鉱山を手に入れたとか……」
247	ミンチン、おどろいて眼鏡をずり上げる		ミンチン「ダイヤモンド鉱山……」 アメリア「ええ、いずれセーラさんは、そのダイヤモンド王の後継になるのですわ」
248	うれしそうに話すアメリア 途中で「あらっ？」となる		アメリア「お姉様が期待していた通り、この学校は素晴らしい後援者を持つ事になったんですねぇ。ね、お姉様、 ～ 聞いてらっしゃるんですか」
249	ミンチン、つぶやくように うれしそうな表情のミンチン F・O		ミンチン「あの娘がダイヤモンド王の後継ぎに…」
250	夜　ミンチン女学院（全景） 煙突からけむり		
251	食事するモーリー		

251	食事中のモーリー、ジェームス、マリエット		
252	聞いているピーター		
253	ジェームス、びっくりしてスプーンを持って		ジェームス「へぇ、するってえと、あの子は世界一の大金持ちのお嬢様になる訳か？」
254A	ちらっとジェームス見るモーリー		
254B	夢中になって話をするマリエット		マリエット「ええ、生徒さん達もその話で大騒ぎ。私も夢みたいな気持ちよ」
255	ピーター、感激して		ピーター「ぼ、ぼくもだよ。ダイヤモンド王のお嬢様の馬車を動かすなんて凄いや」
256	モーリー、ピーターの方を見て マリエットの方を見る ニッコリする		モーリー「よかったねえ、あんた達、あのお嬢様の専属でさ。 これからも私達とも仲良くしとくれよ」
257	ニッコリとうなづくジェームス		ジェームス「うん、うん」

258	モーリー、立ち上り	モーリー「あれ……まだそこにいたのかい！ 〜 いつまでそこに座ってんだよ。今夜の 食事はなしなんだよ。 さあ、早く生徒たちの靴をみがいてお しまい……!!」
259A	うづくまっているベッキー つかつかよって来るモーリー 力なく見上げているベッキー	
259B	モーリー、きつい口調で言う	モーリー「さあ……早くおいきったら……」
259C	力なく立ち上るベッキー そーっと扉が閉まる	S・E　（カチャ）
	O・L	
260	地下作業場　窓辺で靴を並べて いる　靴をみがいている	
262	セーラの机　ランプが赤々と灯 っている　セーラの顔がWらし で写る	
263	手紙読むセーラ	S・E(off)（ベッキーの木靴の音、重い足どり、 コツ、コツ、コツ、コツ）
265	真剣に手紙を読む　T・U	

	ニコヤカな表情になって ハッとして顔を上げる		（だんだん近付く）←～～
268	同・廊下　手に燭台をもったベッキーが上ってくる　お腹に手を当て、よろよろと歩いて来る ベッキー		
269	げっそりしたベッキー ↑FOLLOW　火が消えそうになる　手でおおう		
270	セーラの部屋を通り過ぎるベッキー　SLIDING　out する		
271	扉を開け、顔を出すセーラ セーラ、小声で		セーラ　「ベッキー」
272	振り返るベッキー　手招きする セーラ		
273	ベッキー、思わずニッコリして 大きな声で		ベッキー「お嬢様！」

274A	セーラ、たしなめて あたりを見まわす		セーラ「シ——ッ！」
274B	頭に手をやるベッキー		ベッキー「エヘヘ……」
276	セーラの部屋に入るベッキー 扉閉める		S・E（バタン）
277	セーラの部屋　ダンロにあたる ベッキー　C－PANすると、 セーラがイスを持とうとしている　C－PAN→		
278	ベッキー、火の照り返しがある ニッコリしている　振り返る		セーラ(off)「あなたの通るのを待っていたのよ。 さあ、座って」
280	ベッキー、よろよろと座る セーラ、心配そうに		ベッキー「有難とうございます、お嬢様」 セーラ「ベッキー、どうしたの？ ——（間）—— 仕事が辛かったのね」

281	ベッキー、元気を出して 急にしおれて、お腹をさする		ベッキー「いえ、仕事が辛いのは馴れましたです。でも、今日は叱られて、食事を食べさせて貰えなかったんです」
282	セーラ、びっくりして 戸棚の方に向う		セーラ「まあ、なんて事を……待ってて、ベッキー！」
	A・C		
283	棚の方に向うセーラ		
284	ベッキー、目パチ　キョトン		
285	セーラがベッキーに駆け寄る 箱を持っている		
286	セーラ、ベッキーに差し出す ベッキー、うれしそうに —間— 急にニッコリして受け取る		セーラ「さあ、ミートパイよ、遠慮なく召し上がって」 ベッキー「まあ、お嬢様」 ベッキー「それじゃあ、遠慮なくいただきますです」 セーラ「ええ、どうぞ」
287	ベッキー、不器用ながらフォー		

	クをつかってパイを食べる 顔がほころぶベッキー		ベッキー「うわー、おいしい!!」
288	セーラ、ベッキーを見つめて微笑んで		セーラ「よかった。きっとあなたが好きだと思って……」
289	ベッキー、ニッコリして また一口食べる		ベッキー「有難とうございます。これはおいしくて、その上、おなかが一杯になります」
290	満足そうなベッキー　ゴックンのみこむ		
291	ベッキー、説明して セーラ、同情して		ベッキー「この前頂いたケーキもとてもおいしかったけど、なんだかお腹の中でとけてしまうみたいで……この方がお腹にたまって、私はうれしいです」 セーラ「そう。お腹がすいてたまらないって、私にはよく判らないけど、きっと、とても辛い事なのね」
292	ベッキー、説明する		ベッキー「そりゃ、お嬢様、お腹がすくのばかりは、馴れる訳にはいきませんから」

293	目パチ　あっけらかんのセーラ		セーラ「まあ」
294	二人、思わず笑う ベッキー、思い出したように		二　人「フフフ……」 ベッキー「あっお嬢様、先刻下で聞いたんでございます。ダイヤモンドのお話を……」
295	おどろくセーラ		セーラ「えっ」
296	ベッキー、立ち上がって セーラ、ベッキーをたしなめて窓辺に寄る		ベッキー「おめでとうございます。お嬢様が昔見たプリンセス様におなりになるなんて、私、うれしくて、うれしくて……」 セーラ「ベッキー、私、その事で皆が騒ぐほど夢中で喜こんでいる訳ではないのよ」
297	おどろいて目パチするベッキー		ベッキー「えっ」
298	セーラ、窓辺に近づき、カーテンを少し開けて		セーラ「そりゃ、お父様の事業が成功して下さるのはうれしいけど、それで私が変わるはずないと思うわ」
299	セーラ、振り返って		セーラ「私は、今まで通りの私。セーラのつもりよ」

番号	ト書き		セリフ
300	ベッキー、感極わまり、つぶやくように		ベッキー「お嬢様……」
301	セーラ、はっとして時計の方に近寄って		セーラ「あっいけない、あなたの眠る時間がなく〜〜なってしまうわ」
303	時計は十二時を指している ベッキー、セーラの方を見て		ベッキー「はい、では残りは部屋に戻って、たのしみにいただくです」 セーラ「ええどうぞ」
304	ベッキー、まじめに言う		ベッキー「でも、部屋で食べる時は気をつけなくちゃいけないんです。食べくずを落しておくと、きっとネズミが出ますから」
305	セーラ、びっくりして		セーラ「まあ、あなたのお部屋、ネズミがいるの」
306	ベッキー、説明して立ち上る		ベッキー「ええたくさん。屋根裏部屋にはたいていネズミがいるもんです。でも、もうネズミの走り廻る音には馴れましたです。私の枕の傍を走ったりしなければ

	手を組み、セーラ		ば……」 セーラ「まあ、馴れるだなんて……」
307	ベッキー、笑って		ベッキー「だってお嬢様、私みたいに貧しく育ってきたら、なにになって馴れるしかありませんですもの」
308	ベッキーを見つめて微かに頷くセーラ		
309	赤く燃えるろうそくの炎　揺れる影		
310	同・廊下　ベッキー、奥に行くが、立ち止まる		
313	ベッキー、振り向いて一礼する		
314	応えるセーラ		
315	屋根裏部屋へ向うベッキー 部屋に戻るセーラ		S・E　（バタン）

316	セーラの部屋（寝室）ランプに灯がついている　カーテン閉まっている		S・E　（BGM、START）←〜〜
317	ベッドの中のセーラ ランプを消すセーラ BG（中O・L） T・U		セーラⓂ「屋根裏部屋に住んでいるベッキー…。お父様のダイヤモンド鉱山の事で騒がれている私……。生まれた時の偶然でしかないその運命を思って、私の心は深い悲しみに沈んでいました」

＜おわり＞